

『ADHD/高機能広汎性発達障害の医療と教育』竹田契一監修 日本文化科学社(2006)

『LD 児の言語・コミュニケーション障害の理解と指導 第二版』竹田契一・里見恵子・西岡有香 日本文化科学社(2007)

科目番号 3701	授業科目名: <b>文化理論</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木 3	英文名: Culture Theory	海老根 剛 准教授	2・3 年	2 単位

●**科目の主題**

表現文化コースで学ぶ学生を対象に、文化の考察に不可欠な基本的視点と理論を概説します。表現文化コースは本質的に学際的であり、そこで扱われる対象も多様です。したがって、個別的な主題の多様性のなかにコースの全体像が見失われてしまいがちです。この講義では、表現文化コースが前提する「文化」についての基本的な考え方をいくつかの観点から解説します。

●**到達目標**

文化の概念の歴史の変容を確認し、文化を考える基本的視点を獲得する。

●**授業内容・授業計画**

今回の講義では、まず文化という次元の人類学的起源を確認し、近代社会と、後期近代とも呼ばれる現代社会における文化のありようを、それを対象とする代表的理論とともに解説します。さらに授業の後半では、特に創作に関わる諸理論を参照して、創造行為の意味合いが19世紀から現在までどのように変化してきたのかを考察する予定。

- 第1回 インTRODクシヨン
- 第2回 文化という次元(1)
- 第3回 文化という次元(2)
- 第4回 文化という次元(3)
- 第5回 近代社会と文化(1)
- 第6回 近代社会と文化(2)
- 第7回 近代社会と文化(3)
- 第8回 グローバル化と文化(1)
- 第9回 グローバル化と文化(2)
- 第10回 グローバル化と文化(3)
- 第11回 創作行為をめぐって(1)
- 第12回 創作行為をめぐって(2)
- 第13回 創作行為をめぐって(3)
- 第14回 創作行為をめぐって(4)
- 第15回 まとめ

●**評価方法**

授業期間中に課す複数回のレポートによる。また、レポートの代わりに発表の機会を与えることもあり得る。

●**受講生へのコメント**

表現文化コース二回生は必ず受講すること。

教室の関係上、履修希望者多数の場合には、表現文化コースの学生を優先したうえで受講制限を行うことがある。

●**参考文献・教材**

文献などは随時紹介する。

科目番号 3722	授業科目名: <b>表現文化論</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後月 2	英文名: Lecture in Art and Representation	三上 雅子 教授	2～4 年	2 単位

●**科目の主題**

宝塚歌劇を取り上げる。女性だけの劇団として長い歴史を有する宝塚歌劇団は、近年海外の研究者からも注目を集めている。本授業では、演劇研究の立場から宝塚歌劇を論じるのみではなく、阪神間という地域性に根差した文化としての宝塚歌劇の特質、あるいはファンのあり方をめぐる諸問題、インターネット上における言説など、多様な視点から宝塚歌劇について講じる。

●到達目標

特定の文化現象を複合的視点から分析・考察する方法論を学ぶ。

●授業内容・授業計画

宝塚歌劇を取り上げ、その歴史・現状について複合的視点から講じる。阪神間の地域文化、西洋文化の受容、インターネット上における「宝塚伝説」、ファン・コミュニティのあり方、など講義で取り扱うテーマは幅広いものとなる。授業においては上演DVDも鑑賞するが、可能なら集団観劇も予定している。

- 第1回 イン트로ダクション、アイスブレイキング。
- 第2回 上演DVDの鑑賞、第二次世界大戦前の宝塚歌劇団の歴史について講じる。
- 第3回 上演DVDの鑑賞、第二次世界大戦後の宝塚歌劇団の歴史について講じる。
- 第4回 阪神間という地域文化、企業文化について講じる。
- 第5回 和洋折衷の思想、小林一三について。レビューの誕生、宝塚歌劇と西洋文化との出会い。
- 第6回 宝塚歌劇の特徴—その様式、男役、娘役、すみれコード、銀橋、大階段。
- 第7回 オリジナル作品。
- 第8回 海外ミュージカルと宝塚歌劇(1)
- 第9回 海外ミュージカルと宝塚歌劇(2)
- 第10回 ファンのあり方について、インターネットでの都市伝説。
- 第11回 他の演劇集団・エンターテイメント集団との比較—ビジネスモデルとしての宝塚歌劇。
- 第12回 集団観劇(予定)。
- 第13回 観劇に関する総括、討論。
- 第14回 全体総括。
- 第15回 レポート作成にあたっての注意。

●評価方法

おもにレポートによるが、出席状況も加味する。

●受講生へのコメント

特になし。

●参考文献・教材

適宜指示する。

科目番号 3723	授業科目名: 表象文化論	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前月 3	英文名: Lecture in Culture and Representation	海老根 剛 准教授	2～4年	2単位

●科目の主題

本講義のねらいは、映像作品の考察や分析のため基礎作りです。対象としては主に映画作品をとりあげることになりますが、ビデオやテレビなどの分析にも不可欠な映像リテラシーの習得にも役立つはずです。

●到達目標

この講義ではみなさんにまず多くの作品に触れてもらい、映像作品を考察するための言葉を獲得してもらうことが目標です。したがって、受講者の積極的な参加が求められます。なお第一回の授業の前に見ておいてもらう映画作品を掲示で伝えますので、受講希望者はかならず掲示をチェックするように。

●授業内容・授業計画

具体的な授業形態としては、毎回、いくつかの作品から特定の場面を選んで上映し、その場面の特徴やそこで用いられている技法を考察しながら、映画の多様な側面に光を当てていきます。また、それらの考察を通して、映画の分析に不可欠な基礎概念の導入も行います。以下の授業予定は暫定的なものであり、実際の順序やテーマは変更されることがある。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 運動(1)
- 第3回 運動(2)
- 第4回 運動(3)
- 第5回 空間(1)
- 第6回 空間(2)
- 第7回 空間(3)
- 第8回 時間(1)
- 第9回 時間(2)
- 第10回 時間(3)

- 第11回 演出
- 第12回 古典映画と現代映画
- 第13回 現代映画の諸相(1)
- 第14回 現代映画の諸相(2)
- 第15回 現代映画の諸相(3)

●**評価方法**

課題作品について作品分析を行い、レポートとして提出。それをもとに評価する。

●**受講生へのコメント**

使用教室の制限上、受講希望者多数の場合には履修制限を行うことがある。その際には、表現文化コースの学生を優先したうえで、残りについて抽選を行う。

●**参考文献・教材**

プリント配布。

科目番号 3724	授業科目名: <b>比較表現論</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前木2	英文名: Lecture in Comparative Representation	高島 葉子 准教授	2～4年	2単位

●**科目の主題**

本講義では、ヨーロッパ文化を、日本やアジアの民間信仰にも通じる異教的妖精信仰を通して考察することにより、キリスト教文化圏としてではない、もう一つのヨーロッパの文化像を学ぶとともに、妖精信仰をヨーロッパだけでなく、アジアを含めた広い文化圏のなかで位置づけることを試みる。

●**到達目標**

- (1) 民間伝承のひとつである妖精信仰の基礎的研究方法を学ぶ。
- (2) 比較文化的視点を身につける。

●**授業内容・授業計画**

民話、伝説などの資料を用いてアイルランド、イギリスを中心に西ヨーロッパ諸国の妖精信仰を概観したのち、東欧、スラブ圏の伝承、さらにシベリアおよび東アジアの精霊信仰との比較考察を行う。

- 第1回 導入(妖精の一般的イメージ)
- 第2回 ケルト、ゲルマン神話の中の妖精像
- 第3回 イギリス、アイルランドの妖精信仰 1
- 第4回 イギリス・アイルランドの妖精信仰 2
- 第5回 北欧の妖精信仰
- 第6回 ドイツの妖精信仰
- 第7回 フランス、南欧の妖精信仰
- 第8回 東欧、スラブ圏の妖精信仰
- 第9回 ロシアの精霊信仰
- 第10回 シベリア少数民族の精霊信仰
- 第11回 アイヌ民族のカムイ信仰
- 第12回 日本の民間信仰の神々
- 第13回 日本の妖怪信仰
- 第14回 まとめ
- 第15回 期末テスト

●**評価方法**

学期末に行う論述試験の成績により評価する。

●**受講生へのコメント**

資料の講読など一部演習形式も取り入れる予定なので、積極的に授業に参加してほしい。

●**参考文献・教材**

プリント配布。また、授業時に参考文献を指示する。

科目番号 3725	授業科目名: <b>文化理論基礎演習 a</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後火 4	英文名: Basic Seminar in Culture Theory	三上 雅子 教授	2 年	2 単位

●**科目の主題**

表現文化においてはしばしば、「ポピュラー文化」、「大衆文化」、「サブカルチャー」と呼ばれる作品やジャンル、文化現象が研究対象となる。たとえばベストセラー小説、ヒット映画、マンガ、テレビ番組、小劇場などである。しかし、われわれが日常接する身近なポピュラー文化であっても、研究対象とする以上そこには一定の理論や学問的方法論が存在する。本授業では、表現文化コースで学ぶために必要不可欠な理論、分析の方法について段階的に学んでいく。

●**到達目標**

この授業では、表現文化学研究において必要とされる理論・方法論などを習得していくことを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

具体例にそって表現文化を学ぶために必要な方法論を講じる。表現文化に関する学術的な文章を読み、的確に内容を要約し発表するレッスンをを行う。また表現文化コースでのゼミ発表、レポート執筆に不可欠なスキルである情報検索についても学ぶ。受講生は自分の興味ある分野・作品について分析・発表を行う。

- 第1回 イントロダクション、アイスブレイキング。
- 第2回 参考文献指示、文化理論等についての概説的紹介。
- 第3回 学術総合情報センターにおける文献検索講習。
- 第4回 受講生発表第1回。
- 第5回 受講生発表第2回。
- 第6回 受講生発表第3回。
- 第7回 受講生発表第4回。
- 第8回 受講生発表第5回。
- 第9回 中間総括。
- 第10回 受講生発表第6回。
- 第11回 受講生発表第7回。
- 第12回 受講生発表第8回。
- 第13回 受講生発表第9回。
- 第14回 受講生発表第10回。
- 第15回 レポート作成にあたっての注意、全体総括。

●**評価方法**

毎回の出席を前提に、授業中の発表とレポートにより評価。

●**受講生へのコメント**

表現文化コース所属の2回生を対象とする。表現文化コース2回生は、この「文化理論基礎演習」を必ず履修すること。クラスの a、b、振り分けは教員が行う。

●**参考文献・教材**

授業中に指示する。

科目番号 3725	授業科目名: <b>文化理論基礎演習 b</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後木 2	英文名: Basic Seminar in Culture Theory	野末 紀之 准教授	2 年	2 単位

●**科目の主題**

表現文化コースでは、言語のみならず、さまざまなメディア(媒体)と結びついた表現を分析の対象とする。この授業では、広告や写真などの視覚表現を分析するさいの基本的な概念や方法を理解し、またある程度それを応用できるようにする。

●**到達目標**

それぞれの受講生が、関心をよせる視覚表現(少なくともひとつ)の意味や効果の産出過程を、授業で身につけた考え方をを用いて説得的に分析できたと感じることを目標である。合わせて、英語力の強化をめざす。

●**授業内容・授業計画**

人種やジェンダーにかかわる「他者」の表象を取り上げた英語のテキストを読解する。毎回、受講生には内容を発表してもらう。また、最低一回は各自の関心から選んだ表現を分析することが求められる。

- 第1回 Chapter 1 ①

- 第2回 Chapter 1 ②
- 第3回 Chapter 1 ③
- 第4回 Chapter 4 ①
- 第5回 Chapter 4 ②
- 第6回 Chapter 4 ③
- 第7回 Chapter 4 ④
- 第8回 Chapter 4 ⑤
- 第9回 Chapter 4 ⑥
- 第10回 Chapter 5 ①
- 第11回 Chapter 5 ②
- 第12回 Chapter 5 ③
- 第13回 Chapter 5 ④
- 第14回 Chapter 5 ⑤
- 第15回 試験

●評価方法

出席、発表、試験、レポートを総合的に判断する。

●受講生へのコメント

テキストは入門編ではあるが、読み応えがある。十分な予習が必要。また、授業への積極的な参加が求められる。受講生は原則的に表現文化コースに所属する学生にかざられる。

●参考文献・教材

プリントを配布する。テキストは、*Representation: Cultural Representations and Signifying Practices* (edited by Stuart Hall) からの上記の章。

科目番号 3726	授業科目名: 表現・表象文化論基礎演習 a	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前月 4	英文名: Basic Seminar in Culture and Representation	小田中 章浩 教授 海老根 剛 准教授	2 年	2 単位

●科目の主題

表現文化コースが考察の対象とする文化現象は多岐にわたり、そこには必ずしも特定の「作者」によって創造された「作品」には分類できない表現も多く含まれる。しかし、実際に表現文化コースで書かされている卒業論文のテーマを見てみると、依然として作品の分析が重要な位置を占めるものも少なくない。そこでこの授業ではひとつの「作品」という形態をとって現れる表現に対象を絞り、それを表現論的視点から分析するレッスンを行う。

●到達目標

作品表現の細部に注目する感受性と気づいた事柄から出発して分析を組み立てる論理的思考力を養う。

●授業内容・授業計画

作品分析の対象として扱われる表現のジャンルとしては、小説、マンガ、写真、演劇、映画などを予定している。毎回、こちらから作品を指定し、受講者はそれについて短いレポートを執筆し、事前に提出する。また授業では提出されたレポートを素材に作品の考察を共同で進める。また、ソフトウェアを用いたプレゼンテーション作成と口頭発表の仕方を学び、全員にプレゼンテーションによる発表を行ってもらう。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 作品分析(1)小説
- 第3回 作品分析(1)小説
- 第4回 作品分析(2)マンガ
- 第5回 作品分析(3)写真
- 第6回 作品分析(4)映画
- 第7回 作品分析(4)映画
- 第8回 作品分析(5)演劇
- 第9回 作品分析(5)演劇
- 第10回 作品分析(6)広告
- 第11回 作品分析(7)モニュメント
- 第12回 プレゼンテーション入門(1)
- 第13回 口頭発表(1)
- 第14回 口頭発表(2)
- 第15回 まとめ

### ●評価方法

評価は作品分析のレポートとプレゼンテーション(口頭発表)による。期末レポートは課さない。

### ●受講生へのコメント

授業は、1回から7回までの前半を海老根が、8回から15回までの後半を小田中が担当する。表現文化コースの2回生はかならず受講すること。ただしコースに在籍する学生数を考慮し、授業は2クラスに分けて行う。クラス分けは学期初めのガイダンスにて発表するので、注意すること。

作品に触れて感じたことから出発して論理的思考を組み立てるスキルを学んでください。この授業は表現文化コースの学生を対象とする授業です。他コースの学生は受講できません。

### ●参考文献・教材

その都度、文献等を配布する。

科目番号 3726	授業科目名: 表現・表象文化論基礎演習 b	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前月 5	英文名: Basic Seminar in Culture and Representation	小田中 章浩 教授 海老根 剛 准教授	2年	2単位

### ●科目の主題

表現文化コースが考察の対象とする文化現象は多岐にわたり、そこには必ずしも特定の「作者」によって創造された「作品」には分類できない表現も多く含まれる。しかし、実際に表現文化コースで書かされている卒業論文のテーマを見てみると、依然として作品の分析が重要な位置を占めるものも少なくない。そこでこの授業ではひとつの「作品」という形態をとって現れる表現を対象を絞り、それを表現論的視点から分析するレッスンを行う。

### ●到達目標

作品表現の細部に注目する感受性と気づいた事柄から出発して分析を組み立てる論理的思考力を養う。

### ●授業内容・授業計画

作品分析の対象として扱われる表現のジャンルとしては、小説、マンガ、写真、演劇、映画などを予定している。毎回、こちらから作品を指定し、受講者はそれについて短いレポートを執筆し、事前に提出する。また授業では提出されたレポートを素材に作品の考察を共同で進める。また、ソフトウェアを用いたプレゼンテーション作成と口頭発表の仕方を学び、全員にプレゼンテーションによる発表を行ってもらう。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 作品分析(1)小説
- 第3回 作品分析(1)小説
- 第4回 作品分析(2)マンガ
- 第5回 作品分析(3)写真
- 第6回 作品分析(4)映画
- 第7回 作品分析(4)映画
- 第8回 作品分析(5)演劇
- 第9回 作品分析(5)演劇
- 第10回 作品分析(6)広告
- 第11回 作品分析(7)モニュメント
- 第12回 プレゼンテーション入門(1)
- 第13回 口頭発表(1)
- 第14回 口頭発表(2)
- 第15回 まとめ

### ●評価方法

評価は作品分析のレポートとプレゼンテーション(口頭発表)による。期末レポートは課さない。

### ●受講生へのコメント

授業は、1回から7回までの前半を海老根が、8回から15回までの後半を小田中が担当する。表現文化コースの2回生はかならず受講すること。ただしコースに在籍する学生数を考慮し、授業は2クラスに分けて行う。クラス分けは学期初めのガイダンスにて発表するので、注意すること。

作品に触れて感じたことから出発して論理的思考を組み立てるスキルを学んでください。この授業は表現文化コースの学生を対象とする授業です。他コースの学生は受講できません。

### ●参考文献・教材

その都度、文献等を配布する。

科目番号 3727	授業科目名: <b>表現・表象文化論演習 I</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前火 2	英文名: Seminar in Culture and Representation I	高島 葉子 准教授	2・3 年	2 単位

●**科目の主題**

視覚メディア、視覚芸術としての絵本の分析を主題とする。

●**到達目標**

絵本の表現技法についての基本的知識を習得し、それらの知識を用いて作品の分析を行えるようになることを目標とする。

●**授業内容・授業計画**

前半は、絵本研究の入門書を教材として、視点、語り手、絵と言葉の同調など、絵本の基本的表現技法について学び、後半は具体的な絵本の論考を取り上げて報告、討論を行うことを通じて、絵本の分析方法を習得する。最後に、各自が題材として選んだ作品について、分析、発表を行い、学期末のレポート作成の準備をする。

- 第1回 オリエンテーション
- 第2回 入門的文献の講読
- 第3回 入門的文献の講読
- 第4回 入門的文献の講読
- 第5回 入門的文献の講読
- 第6回 作品論の報告・討論
- 第7回 作品論の報告・討論
- 第8回 作品論の報告・討論
- 第9回 作品論の報告・討論
- 第10回 作品論の報告・討論
- 第11回 作品論の報告・討論
- 第12回 作品論の報告・討論
- 第13回 研究発表
- 第14回 研究発表
- 第15回 レポート相談日

●**評価方法**

出席状況、平常点(発表と討論)、レポート。

●**受講生へのコメント**

受講生による報告、発表、討論を中心に授業を進めるので、絵本への関心を高め、積極的に参加してほしい。

●**参考文献・教材**

テキスト: 竹内オサム『絵本の表現』、藤本朝巳『絵本はいかに描かれるか』、谷本誠剛、灰島かり編『絵本をひらくー 現代絵本の研究』他

科目番号 3728	授業科目名: <b>表現・表象文化論演習 II</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水 5	英文名: Seminar in Culture and Representation II	小田中 章浩 教授 海老根 剛 教授 中川 眞 教授	2・3 年	2 単位

●**科目の主題**

アーツマネジメントとは、芸術と社会をつなぎ、アーティストと一般の人々のあいだの出会いと協働を組織する仕事です。この演習では、講義、ワークショップ、実習を交えて、アーツマネジメントの基礎を学びます。

●**到達目標**

アーツマネジメントの基礎的な理論を学んだうえで、展覧会や講演会などの企画立案を行い、実際にその企画の実現を通して、アーツマネジメントに現在求められている課題とそれにふさわしい手法を学びます。

●**授業内容・授業計画**

開講形式が通常の講義や演習とは大幅に異なるので注意すること。最初のガイダンスに続いて、アーツマネジメントに関する導入的な講義を行い、その後はグループに分かれての実習となる。実習における実際の作業は、授業時間外に行われ、授業ではプロジェクトの進捗状況の報告と問題点の討議が行われる。

この授業は後期に開講されるが、前期のうちに説明会を行い、スケジュールとグループ分けを行うので、掲示に注意し、受講希望者はかならずこの説明会に参加するようにしてください。また、授業は一部、不定期に行われることとなりますが、この点についても説明会で説明します。また、最終的な企画の実施は授業期間の終了後(2 月

後半や3月など)になることも考えられます。受講者はその点を了解の上で受講してください。

以下に15回の授業計画を掲げるが、これはあくまでも仮のものであり、実際には複数の作業が同時進行することになるので、その点に留意するように。

- 第1回 ガイダンス
- 第2回 講義 アーツマネジメントとは何か(1)
- 第3回 講義 アーツマネジメントとは何か(2)
- 第4回 企画立案(1)
- 第5回 企画立案(2)
- 第6回 予算と実施体制の決定
- 第7回 実施時期と会場の決定
- 第8回 ゲストとの交渉
- 第9回 中間総括
- 第10回 広報(1) ウェブサイト、フライヤー作成
- 第11回 広報(2) メディアへの周知
- 第12回 実施要領の詳細と役割分担の決定
- 第13回 作品の搬入と管理
- 第14回 企画実施
- 第15回 まとめ

●**評価方法**

展覧会などのプロジェクトを企画立案・実施するワーキンググループへの参加度および最終的なプロジェクトの成果にもとづいて成績評価を行う。

●**受講生へのコメント**

この授業は、通常の「座学」の授業とは正反対のコンセプトにもとづいて実施されます。他人から教えてもらうのを受動的に待つのではなく、みずから動くことを通して学習する能動的な態度が、受講者には要求されます。企画を実際に実現するための作業の大半は、授業時間外に行われます。型破りな授業ですので、ラクではありませんが、アーツマネジメント(広くは文化を社会に届ける仕事)に関心のある学生には、やりがいのある授業になるはずです。やる気のある学生の積極的な参加を期待します。

●**参考文献・教材**

適宜紹介する。

科目番号 3735	授業科目名: <b>比較表現論特論</b>	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後月4	英文名: Specific Lecture in Comparative Representation	浅岡 宣彦 特任教授	1~4年	2単位

●**科目の主題**

文学と他の芸術ジャンルとの対話

●**到達目標**

文学作品とその他の芸術作品に親しんでもらい、理解を深めてもらう。

●**授業内容・授業計画**

授業内容: 文学作品とそれを素材に用いた他の芸術ジャンル(音楽、美術、演劇、映画等)の作品を取り上げ、表現方法や解釈の相違などを比較検討する。それと同時に、いくつかの重要な事項を取り上げ、さまざまな芸術形態における相違と共通性を検討する。前半はプーシキンとチャイコフスキを取り上げ、主として文学と音楽の関係に焦点をあてる。後半はいくつかの事項を中心にそれぞれに関連する作品を取り上げていく。

- 第1回 ロシア文化の特徴
- 第2回 プーシキンの韻文小説『エヴゲーニイ・オネーギン』
- 第3回 チャイコフスキイのオペラ『エヴゲーニイ・オネーギン』
- 第4回 プーシキンの叙事詩『ポルタワ』
- 第5回 チャイコフスキイのオペラ『マゼッパ』
- 第6回 プーシキンの散文小説『スペードの女王』
- 第7回 チャイコフスキイのオペラ『スペードの女王』
- 第8回 魔法昔話の構造:プロップほか。
- 第9回 異化:シクロフスキイほか。
- 第10回 遠近法・逆遠近法:フロレンスキイほか。
- 第11回 外的視点と内的視点:ウスペンスキイほか。



- 第12回 芸術テキストの枠:ウスペンスキイほか。  
 第13回 悪漢・愚者・道化:バフチンほか。  
 第14回 モンタージュ:エイゼンシュテイン、ロトマンほか。  
 第15回 テストまたは講義の予備。

●評価方法

具体的に作品を複数読んでもらい、いくつかのテーマに沿ってレポート(2回)とテストで論じてもらう。出席とコミュニケーション・カードの記述を考慮し、レポートとテストで評価する。

●受講生へのコメント

主として、ロシア文学の代表的作品とそれを素材にした様々な芸術作品を取り上げるので、必ず複数の作品を読み、鑑賞すること。

●参考文献・教材

適宜、プリントを配布する。

- 参考文献:ウラジーミル・プロップ著『昔話の形態学』(北岡誠司・福田美智代訳)白馬書房。  
 シクロフスキイほか『ロシア・フォルマリズム論集』(新谷敬三郎・磯谷孝訳)現代思潮社。  
 フロレンスキイ著『逆遠近法の詩学』(桑野隆ほか訳)水声社。  
 ボリス・ウスペンスキイ著『構成の詩学』(川崎暎・大石雅彦訳)法政大学出版局。  
 ミハイル・バフチン著『小説の時空間』(北岡誠司訳)新時代社。  
 ユーリイ・ロトマン著『映画の記号論』(大石雅彦訳)平凡社。

そのほかの文献は適宜、授業中に指示する。

科目番号 3716	授業科目名: 表現文化講読 I	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前火2	英文名: Readings in Art and Representation I	野末 紀之 准教授	2~4年	2単位

●科目の主題

イーディス・ウォートン(Edith Wharton)の傑作短篇「目」("The Eyes")を精読する。

●到達目標

幽霊譚の枠組みのなかで微妙に(あるいは大胆に)暗示される男性同性愛の物語を読みとることにより、20世紀初頭における欲望の表現のあり方を考える。精緻な言語表現(小説)を読み解く面白さを味わうとともに、それを分析へとつなげる方法のヒントを得るのが目標である。

●授業内容・授業計画

テキストを演習形式で読みすすめながら、そこにみられる否定形の反復、女の視線の意味、細部における他の同性愛文学や精神分析理論との関連などにも注目する。それにより、他の言語表現(小説)の分析にも有効な視点を提示したい。積極的な発言が求められる。

- 第1回 テキスト 28 ページ~テキスト 30 ページ①  
 第2回 テキスト 28 ページ~テキスト 30 ページ②  
 第3回 テキスト 31 ページ~テキスト 33 ページ①  
 第4回 テキスト 31 ページ~テキスト 33 ページ②  
 第5回 テキスト 34 ページ~テキスト 36 ページ①  
 第6回 テキスト 34 ページ~テキスト 36 ページ②  
 第7回 テキスト 37 ページ~テキスト 39 ページ①  
 第8回 テキスト 37 ページ~テキスト 39 ページ②  
 第9回 テキスト 40 ページ~テキスト 42 ページ①  
 第10回 テキスト 40 ページ~テキスト 42 ページ②  
 第11回 テキスト 43 ページ~テキスト 45 ページ①  
 第12回 テキスト 43 ページ~テキスト 45 ページ②  
 第13回 テキスト 46 ページ 資料と論文を読む①  
 第14回 資料と論文を読む②  
 第15回 試験

●評価方法

出席、発表、試験を総合的に判断する。

●受講生へのコメント

この作品には複数の翻訳がある。参考にするのはよいが、最終的には英文を読み込むこと。

●参考文献・教材

テキストはプリントを配布する。参考文献は授業中に指示する。

科目番号 3737	授業科目名: 表現文化講読Ⅱ	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 後水2	英文名: Reading In Art and Representation Ⅱ	三上 雅子 教授	2～4年	2単位

●科目の主題

現代の文化的事象を取り上げたドイツ語テキストを取り扱う。言語テキストのみではなくドイツ語圏の文化・芸術を扱った非言語テキストをも対象とする。

●到達目標

ドイツ語読解力を養成するとともに、現代文化研究・比較文化研究に必要な総合的知見をも習得させる。

●授業内容・授業計画

日本でもたびたび上演されているオーストリア・ミュージカル『エリザベート』を取り上げる。ドイツ語による上演台本を読むとともに、オリジナル上演DVDと宝塚歌劇版DVDをもとに、日本における受容の諸問題にも触れる。受講生には、ドイツ語テキストを分担・訳読してもらう。

- 第1回 イントロダクション、アイスブレイキング。
- 第2回 オリジナル上演DVD第1部を鑑賞しつつ、歴史的背景等について講じる。
- 第3回 演劇ジャンルとしてのミュージカルについて概説的に講じる。
- 第4回 テキスト訳読第1回。
- 第5回 テキスト訳読第2回。
- 第6回 テキスト訳読第3回。
- 第7回 テキスト訳読第4回。
- 第8回 オリジナル上演DVD第2部鑑賞、中間総括。
- 第9回 テキスト訳読第5回。
- 第10回 テキスト訳読第6回。
- 第11回 テキスト訳読第7回。
- 第12回 テキスト訳読第8回。
- 第13回 宝塚歌劇版DVD鑑賞および解説。
- 第14回 東宝版上演について紹介、日本における受容について討論する。
- 第15回 レポート作成にあたっての注意、全体総括。

●評価方法

授業中の発表 40%、レポート 60%。

●受講生へのコメント

訳読のみでなく、オリジナル上演と日本版との比較なども行うので、受講生のコメント等を含むディスカッションをも重視したい。授業への積極的参加が望まれる。

●参考文献・教材

適宜指示する。

科目番号 3738	授業科目名: 表現文化講読Ⅲ	担当教員名:	標準履修年次	単位数
開講期 前水2	英文名: Reading In Art and Representation Ⅲ	小田中 章浩 教授	2～4年	2単位

●科目の主題

本講は、初級レベルのフランス語を学んだ学生を対象として、表現文化に関連したフランス語の教材を用いることによって、中級フランス語の読解力を習得してもらうことを目的とする。

●到達目標

上記のように、中級フランス語の読解力を習得してもらうことを目標とする。

●授業内容・授業計画

教材は前年度に引き続き、料理がまったくできず、しかも招待した女性を自分の料理で喜ばせたいと思っている独身のフランス人男性を想定した簡単な料理のレシピ集 *Le livre de recettes pour les garçons qui veulent épater les filles*, Riyoko Ikeda, *La Rose de Versailles* (池田理代子『ベルサイユのばら』)、さらに Air France の機内誌 *Air France Magazine* の記事(英訳付)などを、適宜選択して読む。ただし受講者の希望により、他のマンガ、あるいは映画、ファッション等の雑誌の記事など、中級レベルのフランス語の習得に役立つ他の表現文化関

連の題材を扱うこともある。

- 第1回 仏語テキスト購読 1 回目
- 第2回 仏語テキスト購読 2 回目
- 第3回 仏語テキスト購読 3 回目
- 第4回 仏語テキスト購読 4 回目
- 第5回 仏語テキスト購読 5 回目
- 第6回 仏語テキスト購読 6 回目
- 第7回 仏語テキスト購読 7 回目
- 第8回 仏語テキスト購読 8 回目
- 第9回 仏語テキスト購読 9 回目
- 第10回 仏語テキスト購読 10 回目
- 第11回 仏語テキスト購読 11 回目
- 第12回 仏語テキスト購読 12 回目
- 第13回 仏語テキスト購読 13 回目
- 第14回 仏語テキスト購読 14 回目
- 第15回 仏語テキスト購読 15 回目

●**評価方法**

評価は平常点と期末試験によって行う。

●**受講生へのコメント**

受講生は初級レベルのフランス語力を身につけていることが求められる。

●**参考文献・教材**

授業において随時プリントとして配布する。